

「みんなの日本～沖縄県編」

しま ばーそなりてい
島うたパーソナリティ
おおみね まさひろ
大嶺 正廣

あお そら あお うみ ちゅ しまおきなわ 青い空、青い海「美ら島沖縄」

おきなわけん にほんれつとう いちばんみなみ い ち どうしょけん おきなわほんとう ちゅうしん しまじま ゆみ
沖縄県は日本列島の一番南に位置する島嶼県です。沖縄本島を中心に島々が弓になりつらなる

ちゅ しま じんこう まんにん す こせい みりよく み しま せんじんたち いさい はな ぶんか
「美ら島」です。人口138万人が住み個性と魅力に満ちあふれる島には、先人達から異彩を放つ文化が

いま つた
今に伝えられています。

かつて、りゅうきゅう しょう どりつ おうこく ちゅうざんおうきつと ねん ちゅうごく みるんちやうてい
琉球と称され独立した王国がありました。中山王察度は 1372年 中国の明朝皇帝の

ようせい さくほう しんこうかんけい むす
要請をうけて冊封・進貢関係を結びました。

やがて、さんざん とういつ ことしゆり だいいちしょうし ねん だいにしょうし ねん あ やく ねんかん
やがて、三山が統一され、古都首里に第一尚氏50年、第二尚氏400年 合わせて約450年間

おうこくぶんか けいせい はんえい きわ
王国文化が形成され繁栄を極めました。

だいこうえきじだい へ ちゅうごく かんこく とうなん しょこくなど おお ぶんかぶんぶつ でんぼ
大交易時代を経て、中国・インド・日本・韓国や東南アジア諸国等から多くの文化文物が伝播され、

にほんぜんこく なか どりじ ぶんか も おきなわけん たんじやう
それらは日本全国の中でも独特の文化を持つ沖縄県を誕生させました。

ねん りゅうきゅうおうこく およ かんれんいさんぐん せかいいさん とうろく ねんかんやく まんにん
2000年「琉球王国のグスク及び関連遺産群」はユネスコの世界遺産に登録され、年間約600万人の

かんこうきやく おきなわけん おとず たさい ぶんか たの
観光客が沖縄県を訪れ多彩な文化を楽しんでいます。

たと りゅうきゅうからて すい なふあ とうまいでい もとい せんご おお りゅうは う いま せかい
例えば「琉球空手」は「首里・那覇・泊手」を基とし、戦後 多くの流派が生まれ今や世界100カ

こくいじやう まんにん からてあいこうか ひろ
国以上に4000～5000万人の空手愛好家が広がっています。

さんしん やく ねん れきし も がつき さんしんぶんか りゅうきゅうおうこくじだい きゅうていおんがく そんざい のち
「三線」は約600年の歴史を持つ楽器です。三線文化は、琉球王国時代 宮廷音楽として存在し、後

しよみん ひろ しちようそん でんとうげいのう ふうぞくぎようじ とうじょう さんしんぶんか おきなわけんみん にちじょうせいかつ
に庶民に広がり 41市町村の伝統芸能や風俗行事に登場します。三線文化は沖縄県民の日常生活と

ふか と あ まいにち はじ たから たか な ひび
深く溶け合って毎日どこかで弾かれ、宝となり、高らかに鳴り響いています。

「エイサー」は古くは「盆供養」の門前芸能でした。

今日では「古い型」と「新しい型」の創作太鼓集団が年中、観光最前線で活躍しています。

ねんごろ ぜんこく おきなわ お さんしん ひろ ことし ぜんこく
2000年頃、全国に沖縄ブームが起きました。三線とエイサーが広がり、今年から「全国エイサー

たいかい おきなわけん かいさい にぎ
大会」が沖縄県で開催される賑やかさです。

しゅりじょう ちゆ うみすいぞくかん おきなわけん せかい ほこ ぶんか たから さんしん ぶい
首里城や美ら海水族館をはじめ、沖縄県には世界に誇れる文化と宝があります。「三線の部位の
めいしょう てんちじん うちゅうかんねん き うつわ がつき な かみ せんざい つた
名称」には「天地人」の宇宙観念があり、ただの木の器・楽器では無く「神」が存在すると伝えられま
す。

さんしん な ひとびと りょうて てん だいち きぎ おど だいうちゅう けいけん
三線が鳴れば人々は両手を天にかざし、大地にリズムを刻み踊りだします。それは大宇宙への敬虔な
いの だいしぜん めぐ かんしゃ しん りゅうきゅう せんじんたち おし ばんこくしんりょう かね
祈りと大自然の恵への感謝のしるしと信じられています。琉球の先人達の教えは「万国津梁の鐘」の
めいぶん ふね はし こうえき な おとず ひとびと あつ こころ
銘文にしるされるように「舟を走らせ交易を成し、訪れる人々を厚くもてなす心」でした。これがホスピタ
リティーの精神です。

おきなわけん しょくぶんか きゅうていりょうり なごり ぶたにく ちゅうしん りゅうきゅうりょうり
さらに沖縄県の食文化は「宮廷料理」の名残で豚肉を中心とする「琉球料理」がブランドとして
ゆうめい ぶた な こえ け いがい すべ しょく せいかつしゅうかん
有名です。豚の「鳴き声と毛」以外は全て食する生活習慣があります。ソーキ・てびち・ラフテー・ミミガ
など どくじ ふうみ あねつたい きこうふうど てき
一等、独自の風味は亜熱帯の気候風土に適しています。

そしょく あま ちさんちしょう しま あらむんじょうぐう どうがんじゅう い すべ しょく
素食に甘んじて、地産地消の島は「荒物上戸や胴元丈」と言ってそこらへんにある全てのものを食
けんこう ちょうじゆ しま せんじん う つ
し「健康と長寿の島」を先人から受け継いでいます。

「なんくるないさ」と云う格言はくよくよせず ゆっくりと大自然と共生する

様を言い当てています。「人生あわてず どうにかなるさ」とユイマールの

精神——相互扶助の心根が息づき、そう教えられています。

沖縄県の北の離島に「伊是名・伊平屋島」があります。第一尚氏、第二尚氏のルーツの島で、心やさ

しき人々が住んでいます。この島の習慣に「イハジューテー」と云う言葉が残っています。島の家々の

縁側に「お盆と急須・茶菓子」が置いてあります。島を訪れた人の為に、誰でも自由にお茶と茶菓子を

頂くことができるのです。「遠来の客人をお茶でもてなす 尊い精神」が先人達から伝えられる美しい

習慣です。

家に鍵をかけずに門戸を開いて客人を迎える——

古く 沖縄県のどこにでもあった習慣です。

青い空 青い海 沖縄県 日本の中にならながら独特の表情と文化を持つ県です。

あなたがこの島を訪れたらすぐに兄弟(姉妹)ができるでしょう。

《行逢りばチャデー》——心やさしき島人の素朴さは道ですれ違えば皆兄弟と同じ精神風土が

育まれています。

「美ら島沖縄」は旅するあなたにとって心やさしき人々の住む島なのです。

おいでよ！沖縄へ。